

あしかが映像まつり

栃木県足利市

総合政策部 企画政策課 柏瀬誠氏

映像のまち推進課 永井健太氏

7班 コミュニティデザイン学科

中島 亮 高野 涼香

建築都市デザイン学科

新藤 有紗 仁科 懂子

社会基盤デザイン学科

鈴木 一平

1 背景

○あしかが映像まつりとは

足利市で撮影された映像作品を、小学校や商工会議場、ロケ地などで上映するイベント。2015年のスタート時には、市内に映画館がなく、足利市民に映像に触れてもらう機会を提供することを目的として開催が始まった。

○足利市が目指す姿

あしかが映像まつりは今年で5回目を迎え、集客数は年々増加傾向にある。しかし、永く続けていくための軸である足利らしさは未だに見出しきれず課題点として残る。

また、商業振興へとつなげることで、地域に根付き、永く、愛されるイベントでありたい。

2 現地視察

○足利市の現状を把握する

活動に取り組むにあたり、足利市の現状を把握すべきだと考えた。5/11に現地を訪問しロケ地を歩いて巡った。また、同日に開催された屋外上映会において運営側ボランティアとして参加させて頂いた。イベントに参加する側、イベントを運営する側の両面から足利市と映像まつりの現状を把握することができた。



3 仮提案

○現地視察の結果から

現地視察のフィードバックを行い、現状の問題点として大きく3つが挙げられた。以下に仮提案として挙げる。

- ①映像まつりの開催時期・場所を固定化
- ②ロケ地周辺の空き家に作家さんなどの拠点(テナント)をつくる
- ③年間を通して小さな映像まつりを定期的に開催する。



東映プラザ現状 (ロケ作品:今夜ロマンス劇場で) 屋外上映会 会場設置の状況

4 目的・方法

- 調査 I
- 目的
仮提案②に関する必要性や将来性、活動を行う上で抱える問題等を把握する。
 - 対象
足利市に関わりのあるアーティストの方々、デザイナーの方々、アートクロス作家の方々
 - 方法
パートナーさんを介して連絡を取り、回答依頼、記述式のアンケート配布・回収をメールにて行う。

- 調査 II
- 目的
仮提案①③に関して、認知度の調査および映画・映像に関する質問を通して市民の求める映像まつりを明らかにする。
 - 対象
足利市民および足利を訪れたの方々
 - 方法
パネルアンケートを作成し、足利市内ショッピングモールにおいて、街頭アンケートおよび街頭インタビューを行う。

5 結果

調査 I は 5 人の方に依頼し、4 人の方からの回答が得られた。

複数意見のあったもの、話し合いから重要と考えられる意見を以下にまとめる。

○活動に関して

- ・新しいイベントを受け入れる
- ・基盤があるのが足利の魅力
- ・現実的には資金面など厳しいケースもある
- ・映画と他の芸術の融合で、発展するのではないか

○仮提案②に関して

- ・空き家を安く貸すのは魅力的
- ・管理や資金繰りが難しい
- ・実現に向けて検討の価値あり
- ・妥協は足利市の古い町の魅力が失われてしまう
- ・芸術村のように発展させる

○映像まつりとの関連性

- ・ロケ地巡りはリピート率が問題
- ・地元のコミュニティを創り、他のお客さんも受け入れる体制が理想
- ・映像まつりとアートイベントの同時開催でより発展するには、総合的な芸術への喚起が重要。
- ・住民との共生が一番の問題。

調査 II は 76 名の方から回答が得られた。

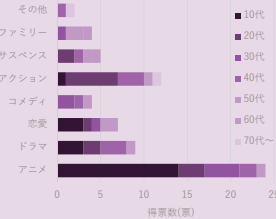
○ジャンルに関して

- ・年代を問わずアニメが人気である。
- ・外出して映画を見る頻度が高いのは10代60代であった。

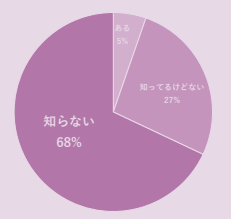
○あしかが映像まつりに関して

- ・映像まつりを知らない人が多い。
- ・行ったことのある人は、全体の5%であり、きっかけは地域広報誌を見て、などが挙がった。

年代別好きなジャンルについて



あしかが映像まつりに行ったことがあるか



6 考察

- 調査 I
- ・イベントに対する住民の理解が必要
 - ・商業振興に対する方法・形態を再検討
 - ・街としての方向性を検討

- 調査 II
- ・周知方法の見直し・改善が必要
 - ・対象(年代・ジャンル)を絞ってのイベント開催や時期・期間の再検討が必要

7 追加ヒアリング

結果・考察を受けて、市への聞き取りを含めた話し合いの場を設けることができた。足利市の取り組みは意欲的であり、新たな事への挑戦も行っていった。しかしまだまだ知らない人が多く居ることも事実であり、さらなる活動がポイントとなる。考察を絡めた話も発展し、今後を見据えた話し合いの場となった。

8 提案

仮提案においては、主に商業を促進するための提案を考えた。しかしアンケート調査から、市民の関心度の向上が最も優先すべき課題であると考え、改めて提案を再構成した。

○基盤形成期

- “映像のまち”としての地固め。市民に映像まつりについて周知し、足利市がロケ地として新しい発展の形を目指していることへの理解を深める。
- ・開催時期や会場の固定(仮提案①)
- ・付随する小イベントの開催(仮提案③)

例)

- ロケ地スタンプラリー
- 小学校のまち探索にロケ地を組み込む
- 上映会でロケ地クイズ



○商業発展期

- 市民の理解が得られたら、市外からの観光集客に目を向ける。他の映像まつりとの差別化を図る。
- ・空き家に作家さんの拠点(仮提案②) → 芸術×映像を足利らしさとして発展
- ・観光バスツアーと連携し、市外からのロケ地巡りツアーを開催
- 映像まつりについて周知

